

## 第 7 回国立国会図書館契約等監視委員会議事概要

開催日及び場所	令和元年 11 月 29 日（金）10 時～正午 国立国会図書館総務課第二会議室	
委員長及び委員	委員長 山本 清（鎌倉女子大学学術研究所教授） 委員 石田 晴美（文教大学経営学部教授、公認会計士） 委員 稲垣 隆一（弁護士） 委員 布施 伸枝（公認会計士）	
審議対象契約期間	平成 30 年 10 月 1 日～令和元年 9 月 30 日	
指名停止の運用状況	指名停止なし	
抽出案件（件）	5	（備考）案件総数 195 件
競争入札（物品役務）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：オートドキュメントフィーダ（ADF）付きスキャナ及び周辺機器 2 式の購入</li> <li>・契約相手方：ムサシ・アイ・テクノ株式会社</li> <li>・契約金額：2,398,917 円</li> <li>・契約締結日：平成 31 年 1 月 18 日</li> <li>・担当部局：関西館総務課</li> </ul>
競争入札（物品役務）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：国立国会図書館東京本館における図書館資料の出納等作業 1 式</li> <li>・契約相手方：日本通運株式会社</li> <li>・契約金額：320,760,000 円</li> <li>・契約締結日：平成 31 年 4 月 1 日</li> <li>・担当部局：総務部会計課</li> </ul>
随意契約（物品役務）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：「曾我物語」等の購入</li> <li>・契約相手方：株式会社思文閣出版</li> <li>・契約金額：26,500,000 円</li> <li>・契約締結日：平成 31 年 2 月 21 日</li> <li>・担当部局：収集書誌部</li> </ul>
随意契約（物品役務）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：建築保全業務</li> <li>・契約相手方：アズビル株式会社</li> <li>・契約金額：367,200,000 円</li> <li>・契約締結日：平成 31 年 4 月 1 日</li> <li>・担当部局：総務部会計課</li> </ul>
随意契約（物品役務）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約件名：NDL デジタルアーカイブシステム用データセンターサービス 1 式</li> <li>・契約相手方：西日本電信電話株式会社</li> <li>・契約金額：274,888,857 円</li> <li>・契約締結日：平成 31 年 4 月 9 日</li> <li>・担当部局：関西館総務課</li> </ul>
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の具申又は勧告	なし	

## 別紙

主な意見・質問	回答等
<b>【オートドキュメントフィーダ（ADF）付きスキャナ及び周辺機器2式の購入】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・汎用機器の調達にもかかわらず、1者応札となった理由は何か。</li> <li>・調達機器のスペックについて精査が甘いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京本館での試行終了後に関西館で調達することになったため、調達時期が悪かった。</li> <li>・今回の調達は、プロジェクト内での試行の位置づけのため、試行の実施結果に基づき、機器を追加・交換する場合はスペックについても見極めたい。</li> </ul>
<b>【国立国会図書館東京本館における図書館資料の出納等作業 1式】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1社応札だが他社の参入障壁は何か。</li> <li>・戦略的入札が疑われる場合の対応を検討しておくべきではないか。また、予定価格の単金も検証が必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟や慣れもあるが、他社でも参入できる内容である。過去には5社参加の実績もあるため、価格や人員等の折り合いがつけば、複数社の参加も見込める。</li> </ul>
<b>【「曾我物語」等の購入】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般に流通しない古書の金額の妥当性をどのように確認しているのか。古書業界の鑑定が妥当なのか。</li> <li>・資料の真偽・価値や、国立国会図書館がその資料を今購入することの是非など、国立国会図書館が資料購入において検証している内容を外部にわかりやすく示せるものを整えるべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の市場価格については、その時々での流通事情にもよるので、業界内の目を妥当なものとして判断している。</li> <li>・資料の状態については、購入前に職員が資料を実際に見て確認し、購入理由書を決裁に添付している。</li> </ul>
<b>【建築保全業務】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1社応札だが他社の参入障壁は何か。</li> <li>・国際子ども図書館と東京本館を分けて、規模を小さくすることはできないのか。</li> <li>・今後とも複数業者の応札を促す努力を続けてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者ヒアリングによると、本件に限らず人材の確保が難しいためと聞いている。</li> <li>・以前は国際子ども図書館と東京本館を分けて調達していたが、国際子ども図書館の規模が小さいために参加が不可能となった業者がいた実態を踏まえ、2つの館をまとめた調達としている。</li> </ul>
<b>【NDLデジタルアーカイブシステム用データセンタサービス 1式】</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・随意契約は妥当であったのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存ハードウェアや他システムとの接続の問題があり、現状では当該業者としか契約しえない。令和3年度のリプレースの際には、競争性がある形で調達する予定である。</li> </ul>